

令和5年度矢掛町立矢掛中学校学校評価書

校長 小野秀明 印

本校のミッション
○矢掛町の目指す子ども像「ふる里やかげを愛し、ふる里やかげて活躍するたくましい子ども」を育成する。（不易） ○カリキュラム・マネジメント等を推進し、社会や時代の変化に対応できる力を育成する。（流行） ・生徒の主体性を育成することに重点をおき、学校教育目標「自ら考え行動する」の達成を目指す ・主体性を育成するプロセスとして「自分で選択する（決める）」→「自分に任せられる（やってみる）」→「失敗は当たり前」→「自分で結果の責任を取る」→「結果を踏まえて新たな選択をする」サイクルを回す

学級数	10学級	生徒数	241人
職員数	26人	家庭数	223戸
学校関係者評価委員	岡本邦広（学識経験者・新見公立大学教授）、高月秀人（学識経験者・県立矢掛高等学校長）、藤原立志（地域住民・学識経験者・元小学校長）、渡追求（地域住民・学識経験者・元中学校長）、守屋玉枝（地域住民・スクールサポーター）古城賀津子（地域住民・地域コーディネーター）、岸野純子（保護者・矢掛中学校PTA会長）、中川裕之（保護者）、小野秀明（当該学校の校長）、日高充和（当該学校の教頭）、木科孝夫（当該学校的主幹教諭）		
専門評価委員	岡本邦広（新見公立大学） 諏訪英広（川崎医福大学）		

A成果をあげているBほぼ成果をあげているCあまり成果をあげていないD成果をあげていない

	領域	中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自己評価	評価
1	学習活動	自律した学習者の育成	予習型への授業改善を図る。	・準備学習を生かした授業を原則毎時間行う。	・生徒アンケート「各教科の準備学習に、自分から考えて取り組んでいますか」の肯定的回答が、80％以上になる。 ・教師アンケート「私は、準備学習を生かした授業を原則毎時間行っている」の肯定的回答が、90％以上になる。 ・生徒は、準備学習をすることによって、「何が分からないのか」が分かった上で授業に臨むことができている。	生徒は準備学習に対して肯定的回答が81％で達成基準を超えている。教師は「毎時間準備学習を行う」に対して、概ね肯定的（89％）な取組となっているが、今後も学校全体で取り組んでいく必要がある。 生徒アンケートでは「授業の内容がインプットしやすい。」等の肯定的な回答が多く見られた。	A
			主体的・対話的で深い学びを目指した授業を行う。	・準備学習を協働学習につなぐ授業づくりを行う。	・生徒アンケート「グループ学習に意欲的に参加している」の肯定的回答が、90％以上になる ・教師アンケート「私は、準備学習を協働学習につなぐ授業づくりを行っている」の肯定的回答が、90％以上になる ・生徒は、準備学習をして協働学習をすることによって、意欲的に意見を伝えたり深めたりすることができている。	生徒は協働学習に対して肯定的な意見が基準値を超えている。（92％） 教師の「準備学習を協働学習へつなぐ」は、計画を修正したため、アンケート内容を変更した。 協働学習は、集団づくりの面でも重要であり、今後一層推進する必要がある。	B
			単元のまとまりを意識した授業と評価を行う。	・単元の始めに、単元プランを提示する。 ・単元テスト（再テスト）に向けた家庭学習を促す。	・生徒アンケート「家で自分で計画を立て勉強をしている」の肯定的回答が、80％以上になる。 ・教師アンケート「私は単元のはじめに、単元プランを示している」の肯定的回答が、90％以上になる。 ・生徒は単元の見通しやテストの予定を知ること、主体的かつ計画的に学習することができている。	教師は、単元の始めに単元プランを示すことができている。（100％） 生徒は、「家で計画的に学習をしている」が63％で基準値に達していない。主体的かつ計画的な取組ができていない生徒に対して、より細やかな手立てが必要である。	B
			探究的な「総合的な学習の時間」を計画、実践する。	・1年生は、「やかげ探究プログラム」の見直しと定着を図る。 ・2年生は、「商品開発プロジェクト」を完成させる。 ・3年生は、「やかプロ」を主体的にやり遂げられるようにする。	・生徒アンケート「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表している」の肯定的回答が、75％以上になる。 ・生徒は、課題を見つけ探求する力・表現する力・人間関係を築く力を身に付けることができる。	生徒は自ら課題を見つけ探究する力・表現する力・人間関係を築く力を身に付けようと、積極的に取り組んだ。（89％） 人間関係を築く力を身に付けさせるため、より細かな手立てが必要である。 総合的な学習の時間の系統化をより一層進めたい。	A
2	特別活動	自己指導力の育成	共感的な人間関係に基づく学級活動を充実する。	・構成的グループエンカウンター等、人間関係づくりを計画的に行う。 ・学級会や班長会で話し合いが充実できるようにする。	・生徒アンケート「困ったときに相談できる友達がいる」の肯定的回答が80％以上になる。 ・教師アンケート「私は、人間関係づくりのために、生徒主体の学級活動が実践できていると思う」の肯定的回答が80％以上になる。 ・生徒の学級へ所属感が高まり、自己肯定感も高まっている。	生徒は協働学習や学校生活を通じてわからないことを友人に聞いたり、困ったことを話したりすることができている。（93％） 引き続きエンカウンターなどを積極的に取り入れ、人間関係づくりを深めていく。教師も生徒を主体とした学級会や班長会を引き続き取り入れ、学級活動を充実させていきたい。教師アンケート（83％）	A
			生徒会活動の充実を図る。	・専門委員会の時間を計画的に確保する ・生徒が主体的に計画・実行する機会を増やす。	・生徒アンケート「生徒会の活動に積極的に参加している」の肯定的回答が90％以上になる。 ・生徒会主体の集会を、年間5回以上実施する。 ・生徒会目標の達成を目指して、生徒の発案により集会等の計画・運営を行っている	アンケートへの肯定的回答は63％で達成基準を下回った。新入生歓迎会や壮行式、清掃ボランティアなどの取組を多くの生徒が積極的に参加していたが、生徒会活動の一環である自覚がなかったと考えられる。 生徒自身が学校の問題について考え、話し合い、働きかける活動を計画し、実施することができた。	B
			生徒が学校行事に主体的に参加できるようにする。	・体育会や合唱発表会において、生徒が企画・運営に参画する。 ・校外行事において実行委員会を中心に活動する。	・生徒アンケート「学校や学年で行われる行事に積極的に参加している」の肯定的回答が80％以上になる。 ・計画に生徒の意見が反映されており、運営に生徒が携わっている。	アンケートへの肯定的回答は90％で達成基準を上回り、多くの生徒が積極的に行事へ参加した。 行事に向けた話し合いや当日の運営に生徒が携わり、主体性や社会性を高めるための重要な活動となった。	A
3	学びの基盤	個別の生徒指導	「こころの教室」の活性化と個別対応の充実を図る。	・学習方法、居場所づくりなどの個々のニーズに合わせた支援を行う。 ・アドバイザーが、小学校へ定期的に訪問し、情報収集と連携強化を行う。	・生徒が自分で予定表を作り、計画的に過ごすことができる。また、希望者には単元テスト（再テスト）の受検機会を増やす ・毎学期1回以上小学校を訪問するとともに、必要に合わせて随時訪問する。	それぞれの生徒に応じた対応を図り、学習への意欲を継続することができた。単元テストを中心に提出課題等も含め、学習支援の立場からサポートできた。 学年により取り組む姿勢に違いはあるが、生徒の主体性を生かすことができつつある。 小学校への訪問も計画的・定期的に実施できている。	A
			学校適応感を高める。	・年2回のアセスを活用し、生徒個人の課題分析や変容を把握する。 ・全校で情報を共有し、支援の方策を構築する。	・研修の時間を確保し、アセスの活用方法を職員が共有することができ ・職員会議、生徒指導委員会等で、個別の支援方法を協議・確認し全職員で共有する	アセスの活用方法については職員研修を持つことができ、分析等に生かすことができた。 学期始めの教育相談も生徒主体に位置づけ、ひとりひとりの生徒の内面の把握もていねいに行うことができた。 職員会議や生徒指導委員会でも定期的な情報交換ができ、共有のもと早期の対応を図ることができている。	A
		安全で安心できる校風の醸成	認め合い、安心して授業や生活ができるようにする。	・人権集会等を通じて、他者を尊重する等の人権感覚を育成する。 ・校則を主体的に守れるように、生徒中心に話し合って改訂する。	・生徒アンケート「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が90％以上になる ・教師アンケート「私は、生徒が課題を見つけ、解決に向け具体的な行動ができていると思う」の肯定的回答が80％以上になる ・他者のことを思いやり、優しい言葉遣いが飛び交うようになる ・失敗や間違いを恐れず、どの授業でも協働学習や発表が活発に行える雰囲気になる	「学校に行くのが楽しい」と回答したのは、87％であった。心理的な安心をグループエンカウンター等を取り入れた学級活動で培ってきたい。 「私は、生徒が課題を見つけ、解決に向け具体的な行動ができていると思う」の肯定的回答は89％で達成基準を超えた。これで満足することなく、努めていきたい。	B

分析・改善方策

カリキュラムマネジメントによって、少しずつ生徒の主体性が高まりつつある。自分の考えをもって協働学習に取り組む場合、難易度の高い準備学習を求めると、できにくい生徒が増える。そこで準備学習をした内容から授業で話し合う課題を見つけ、協働学習に生かしていく取組にしていきたい。例えば疑問やわからなかったことを見つけてくるものなど。
協働学習は、集団づくりの面でも重要であり、今後一層推進する必要がある。また、再テストの方法や点数の取り扱いを教科の特性に合わせ検討する。
また、主体的な学習方法を考えるのが難しい生徒には学習相談日を充実させられるよう教育課程の編成の工夫を検討する。

学校関係者評価

- 校長のリーダーシップのもとに、大きな改革を進めている。さらに充実させるためにも保護者、地域住民にきめ細かな説明を望みたい。
- 今年度から、生徒代表が学校運営協議会にオブザーバーとして参加し、より充実したものになった。今後、継続、深化させたい。
- 単元ごとのテストに変わり、学習の理解度が上がった。一方、主体的、計画的に取り組むことが苦手な生徒には、個に応じた学習方法を支援してほしい。
- 生徒が準備学習に自分から進んで取り組み、教師もそれを生かした授業が出来つつある。生徒の変容の記述を求めたい。
- 「やかプロ」のアンケート調査に「主体性を発揮する場面が多くあった」と多数の生徒の回答があった。生徒自ら課題を見つけ、探求する力や人間関係を築く力を身につけたことは評価できる。
- 県より加配を受け「こころの教室」の充実が図られ、教室に入りにくい生徒の居場所づくりになっている。「学校へ行くのが楽しい」と言える生徒が、さらに増えることを期待したい。